

小林中央ロータリークラブ 30周年

1月19日、小林中央ロータリークラブ（山下武士会長）の創立30周年記念式典がガーデンベルズ小林で開催されました。記念事業として、市や警察署などに寄付や記念品などを贈呈。式典後は、みやぎき被害者支援センターによる講演などが行われました。



小中学校に「交通安全」のぼり旗寄贈

1月22日、小林交通安全協会から市教育委員会に「交通安全」のぼり旗63組が贈られました。同協会の溝口誠二会長は「児童生徒の悲惨な交通事故の防止に役立ててほしい」と話していました。市内の各小・中学校に3組配布され、交通事故防止啓発に使われます。



家庭教育を学ぶ。PTA 研究大会開催

1月25日、PTA 研究大会が市文化会館で開催されました。PTA 活動に大きく貢献した個人16人と2団体の表彰や研究発表、講演会などを実施。研究発表では、細野中学校区のPTAが「夏休み課題未提出0運動」や「家族の絆づくり」などの取り組みを紹介しました。



立志式で、現代の名工黒木さんが講演

1月28日、須木小・中合同立志式が須木総合ふるさとセンターで開催されました。児童と生徒29人が、一人一人将来の夢や決意を発表。須木出身のガラス工芸作家で、国の「現代の名工」でもある黒木国昭さんの講演もあり、子どもたちにエールを送りました。



医師確保など西諸の医療体制強化について連携を確認

1月27日、西諸地域の医療について関係者が一致協力して取り組む体制を強化しようと、第1回目となる西諸医療懇話会が開かれました。懇話会の設立を呼び掛けた一般社団法人西諸医師会の高崎直哉会長が「医療に関する共通の課題改善に向けて意見を交換いただきたい」とあいさつ。医師確保などについて活発に意見が交わされました。



西諸地域が抱える医療の課題解決に向け、肥後正弘小林市長のほか、えびの市長、高原町長、小林保健所長が参加した懇話会の模様

家庭生活や家族の絆がテーマ 優れた標語・作文を表彰

1月31日、「青少年健全育成標語」と「家族の作文」の表彰式が中央公民館で行われました。標語は市内の小学生から一般まで1038点、作文は市内小・中学生から954点の応募があり、式には各賞を受賞した48人が出席。各部門の最優秀賞者を代表して、6人が作品を読み上げました。



最優秀賞から佳作まで、入賞作品は標語24点、作文127点。受賞者や標語の優秀作品などは、市ホームページで公開しています



JAこばやし給油所のガソリン価格は、市内全域統一。須木地区唯一の給油所を存続させるため、ご協力をお願いします

JAこばやしが施設を取得 須木地区に待望の給油所再開

昨年7月から給油所のなかった須木地区に給油所が再開しました。休業中の施設をJAこばやしが取得し、1月21日に営業を再開。同JA事業課の深田利春課長は「灯油や軽油と違い、ガソリンは配達量の制限があり、再開の声が多かった。地域の給油所として根付かせていきたい」と話していました。



こすも〜丼は、宮崎牛やゴボウなどを使った牛丼で、味付けは焼肉のたれ風。児童は「おいしい」「また食べたい」と箸が進んでいました

生産農家ら給食に宮崎牛贈る 小中学校で「こすも〜丼」

1月24日、市内の和牛生産者団体が、市教育委員会に宮崎牛約250キログラムを贈りました。1月28日には、その肉を市内小中学校全21校で給食メニュー「こすも〜丼」として利用。和牛部連絡協議会の東梅住男会長は「日本一の宮崎牛を誇りに思っています」と話していました。

世界で小林市にのみ生息 オオヨドガワゴロモを保護

1月18日、世界でも岩瀬川にのみ生息する水中植物「オオヨドガワゴロモ」の保護活動が行われました。宮崎植物研究会など6団体、43人が参加。参加者は、ほうきやデッキブラシなどを使い、光合成や受粉の妨げになる岩場の泥やコケを丁寧にこすり落としていました。



同研究会の南谷忠志会長は「この植物が生息していることは水がきれいな証拠。これからも大切にしてほしい」と話していました

明るい地域づくりで犯罪防止 椎葉優美さんの作文が優秀賞

第63回社会を明るくする運動作文コンテストで、須木中学校3年椎葉優美さんの「明るい地域づくり」が、宮崎県保護司会連合会長賞（優秀賞）を受賞しました。1月23日、須木中校長室で授賞式が行われ、関係者ら11人が出席。西諸県地区保護司会窪田英二会長から表彰状が贈られました。



椎葉さんは「須木では地域の人と会うと自然にあいさつをします。そんな明るい地域が犯罪や非行の防止になると思う」と話しました

中高生らも参加。フルートコンサート

2月1日、工藤重典さんらフルート奏者5人による「クドウ・シゲノリ・フルート・アンサンブル」コンサートが文化会館で開催されました。オープニングでは、出演者から直接指導を受けた市内の中学・高校生ら12人も共演。アンコールを含む15曲が披露されました。



ミュージカル俳優井料瑠美さん講演

2月2日、県商工会議所青年部連合会（松岡重孝会長）の平成25年度会員大会が、文化会館で開催されました。講演には、市出身のミュージカル俳優井料瑠美さんが登壇。歌を交えながら自身の体験を語り、「子どもたちの夢を育ててほしい」と話しました。



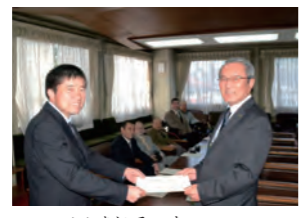
満開の桜並木を願い、手入れ作業

2月9日、牧場の桜の手入れ作業が行われました。小林さくらの会を中心に、市民ら91人が参加。参加者は、枯れ枝や病気に感染した枝の剪定や周辺のごみ拾いなどをしました。同会の小菌勇専務理事は「毎年の手入れの成果もあり、状態もいい」と話していました。



障がい者支援団体NPO法人に認証

2月12日、特定非営利活動（NPO）法人サンライズの設立認証書交付式がありました。サンライズは、障がい者の就労支援やスポーツ振興などが目的。飯谷哲男理事長は「スポーツで交流の輪を広げ、障がい者が住みよいまちにしていきたい」と話していました。



県農産園芸特産物総合表彰 市から6人に知事賞や特別賞

2月14日、平成25年度宮崎県農産園芸特産物総合表彰式が宮崎観光ホテルで開催されました。【表彰者・敬称略・写真左から】永田耕一（花き・紙屋）、藤田博志（野菜・紙屋）、片ノ坂信夫（葉たばこ・南西方）、園田信幸（茶・東麓）、大川平香（普通期水稲・真方）白畑佐年（果樹・東麓・式は欠席）



農林水産省生産局長賞も受賞した藤田さんは「農業を取り巻く情勢は厳しいが、今後の生産にも活気がでる」と話していました

豊かな森を未来に残そう 市民ら広葉樹やモミを植樹

2月15日、北霧島水源の森づくり推進会議主催の「もみとどんぐりの植樹祭」が開催されました。市民ら約100人が参加し、モミ100本と広葉樹500本の苗を植樹。同会の山之口志朗議長は、「多くの人に参加してくれました。もっと、この輪を広げていきたい」と話していました。



市の木であるモミは、NPO法人エコワールドきりしまからの提供。参加者は、一本ずつ丁寧に穴を掘り植樹していました



「私たち高齢者もまちづくりに参加し、安心して住みよい地域にするため努力していきます」と謝辞を述べた赤崎肇雄さん

もっとよりよい福祉のまちに 功労者表彰と金婚・米寿祝う

2月7日、地域福祉の向上を目指す「こばやし福祉推進大会」が文化会館で開催されました。表彰式では、福祉に貢献した個人7人と3団体が市長表彰や社会福祉協議会会長表彰などを受賞。また、金婚者112組、米寿者114人を祝い、仲良友愛会の舞踊や洲春会の民謡などが披露されました。



「物事は難しく考えない方がいい」、「笑うと元気になる」など、笑える例を挙げながら介護予防について講演する歌之介さん

笑いが長生きの秘訣 落語家三遊亭歌之介さん講演

2月11日、介護予防フォーラムが文化会館で開催されました。市内外から約900人が来場。認知症サポーターリーダーの実践報告や表彰などがありました。講演には、落語家の三遊亭歌之介さんが登壇。「長生きの秘訣」などを取り入れた落語で、会場は大きな笑いに包まれました。

J2ギラヴァンツ北九州 小林で春季キャンプを実施

2月7日から12日、サッカーJ2リーグのギラヴァンツ北九州のキャンプが市内であり、柱谷幸一監督らチームスタッフと選手ら27人が来市しました。7日、宿舎のジェイズカントリークラブ小林で歓迎セレモニーがあり、市合宿誘致推進協議会などから完熟金柑や宮崎牛が贈られました。



歓迎セレモニーで花束を贈られる柱谷監督。「キャンプはゲーム中心。選手たちには練習の成果を発揮してほしい」と話していました

空き店舗など利用し賑わいを 物産市や高校生レストラン

2月の毎週末に、商店街にぎわい創出事業事務局主催で「高校生作品展」、「チャレンジマーケット」や「地元のお野菜と物産市」などの各種イベントが開かれました。2月8日から9日には、高校生の三ツ星レストランを開店。小林西高調理科2年の生徒らが、授業で学んだ料理を披露しました。



メニューは、ハンバーグの牛肉巻きやきのこスープ。無農薬野菜を使ったこだわりの品に、来場した人は「おいしい」と声があがりました